

雪資源ポテンシャルという 考えの提案

極端気象災害研究領域 雪氷防災研究センター

プロジェクトメンバー参照



Point

- 雪の負の側面を減らす研究と正の効果を伸ばす研究を総合的に実施
- 地域経済や防災力向上に貢献する共創研究を自治体・企業・大学等と推進
- 極端気象災害発生と社会・経済情勢の変化に対応した気候変動適応研究

概要

雪は雪氷災害を引き起こしたり、生活の不便さを引き起こすなど負の側面があります。一方で、水資源や観光資源など、地域に恩恵をもたらす正の効果もあります（図1）。今までは雪の負の面と正の効果に関して、それぞれ「克雪研究」、「利雪研究」として別々に研究されてきました。

防災科研では、雪の持つ「負の側面」と「正の効果」を含めて雪を資源ととらえ、総合的に雪が持つ資源としての価値を判断する「雪資源ポテンシャル」という概念を提案しています。雪の負の側面を減らす研究はもちろん、正の効果を伸ばす研究も実施することで、結果的にその地域の雪資源ポテンシャルを総合的にプラスにすることを実現し、地域経済や生活を豊かにする研究を地方自治体や企業、大学等と共創しながら実施します。

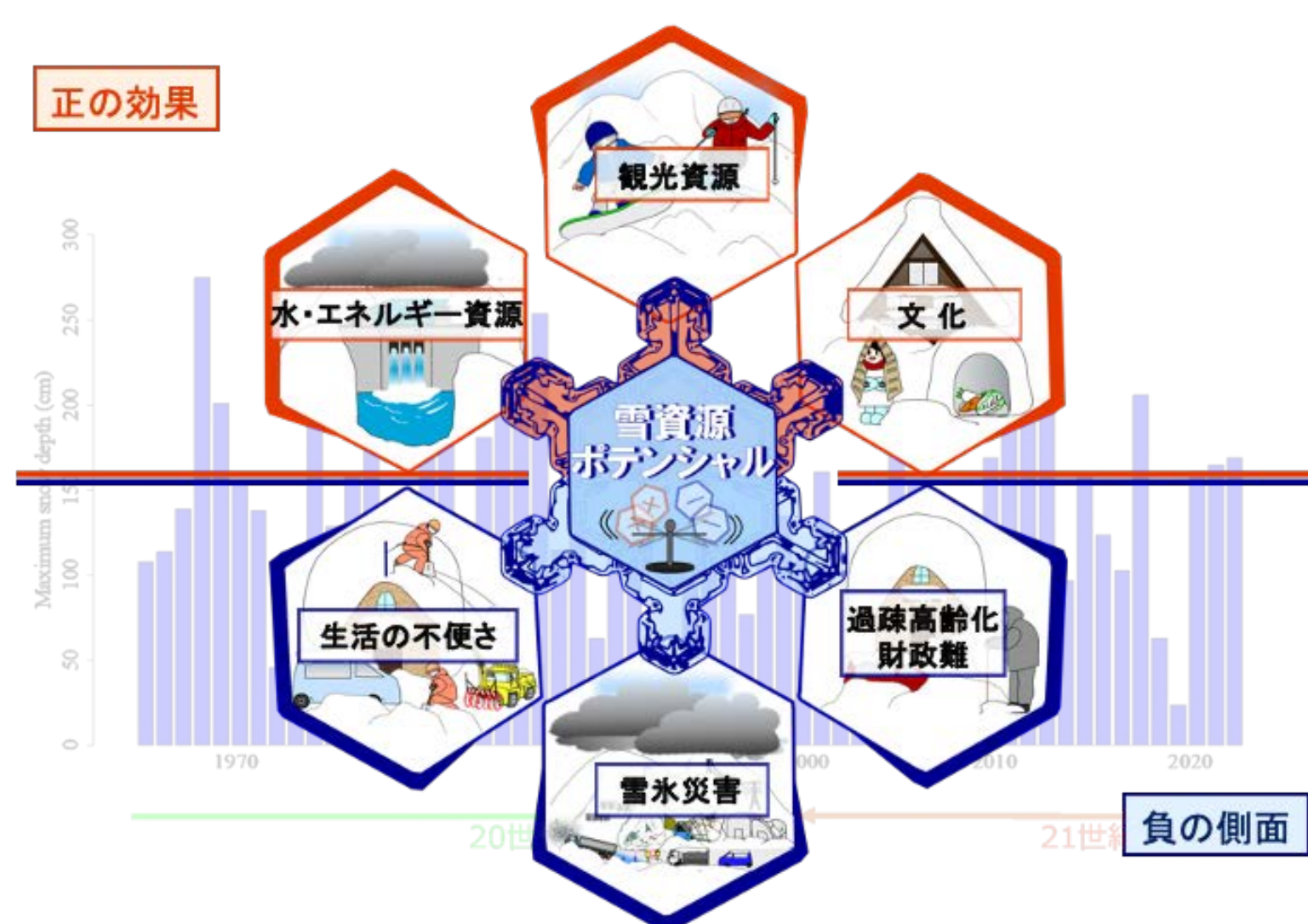


図1 雪資源ポテンシャルのイメージ

今後の展望・方向性

地方自治体や企業との共創に基づく地域の防災力と魅力向上への取り組みの一例を示します。

北海道二セコ地域（二セコ町、倶知安町）は、国定公園である二セコアンヌプリ山の裾野に、5つの広大なスキー

リゾートが広がっています。良質なパウダースノー、広いゲレンデ、バックカントリー等のハイクオリティサービスを提供しており、それを求める国内外からの観光客がたくさん訪れる国際的なスキーリゾートとなっています。

二セコ地域では、スキー場の雪崩管理を地元の有識者の経験に依存していますが、後継者の育成や組織的な運用体制確立などの課題があります。そこで防災科研では、地元の自治体やスキー場と協力しながら有識者の雪崩管理に関する思考プロセスを科学技術で見える化を行っています。その過程を通じて、二セコ地域における雪崩管理に必要な情報を明らかにし、防災科研の技術でそれらの情報の見える化（図2）を実施しています。さらにそれらの情報をスキー場の雪崩管理関係者と共有することで、科学的手法に基づく雪崩管理の高度化や継続的な運用体制の確立に向けた取り組みも行っています。これらを通じて地域のブランド力のさらなる向上に貢献することを目指しています。

このような雪の負の側面を減らし、正の効果を伸ばす研究を他地域でも実施します。



図2 雪崩管理情報共有システムの表示画面

二セコ地域における雪崩管理に重要な情報の現況値や予測値をスキー場関係者間で共有できるシステムである。2021冬季から二セコスキー場の雪崩管理に使われている。

